

木材の用途・販路考える

都内でフォーラム



フォーラムで尾鷲ヒノキについて語る浜田さん

山村を元気にするために地域木材の用途・販路を考えようと、「こっぽんの木の出口」をテーマにしたフォーラムが、東京都内で開催された。

全国の事例が紹介され、県内からは尾鷲ヒノキで知られる森林組合おわせ（紀北町）の浜田長宏・加工販売課長が参加。国際NGO「森林管理協議会」（FSC）から「環境に配慮した林業」としてFSC認証を取得する取り組みの強化を報告した。

浜田課長は「FSC認証をキーワードに木材供給体制を強化したい。従来の単独取得より負担の少ないグループ化を進めている」と説明。現在、4事業体で5

600社の認証山林を、仲間を増やすことで来年には1万社にしたいという。

参加者への応援メッセージを託された速水林業（紀北町）代表の速水亨さんは「世界では林業は利益の出る産業。木材は環境に負荷をかけない原材料」とその魅力と利用拡大を訴えた。

フォーラムは各地の製材業者や木工業者と連携し、国産材での家具づくりを進める「ワイス・ワイス」社（東京都渋谷区）が主催し、約200人が参加。「日本の森林資源を活かす」と題して基調講演した沖修司・林野庁長官は、意欲と能力のある林業経営者に森林管理を委託する新たな森林管理システムの必要性を強調した。

11月28日 (岐阜県版)

11月29日 (愛知県版)

地域木材で仮設住宅紹介

活用フォーラム 県内でも採用の工法

山村を元気にするために地域木材の用途・販路を考えようと、「こっぽんの木の出口」をテーマにしたフォーラムが24日、東京都内で開かれ、全国の事例紹介の中で、県内でも学童保育施設向けに採用が決まった。



写真で自社を紹介する森本さん（右）親子

高山の製材所の取り組みを紹介

都内で林業フォーラム山村を元気にするために、地域木材の用途、販路を考えることをテーマにしたフォーラムが、東京都内で開かれ、全国の事例が紹介された。県内からも広

葉樹の製材に特化しているカネモク（高山市）の森本敏社長が参加し、「家具となる広葉樹を扱うのは、木の国」高山でもわが社だけになった。山に立っている木に一本として不要な木はない」と語った。

各地の製材業者や木工業者と連携し、国産材での家具づくりを進める「ワイス・ワイス」社（東京都渋谷区）が主催し、約200人が参加した。

10道県の製材業者らの取り組みが紹介され、森本社長は「広葉樹の人工乾燥で独自手法を開発し、他社からも依頼を受けている。家具はまた外材利用が多いが、我が社は山林側と家具づくりの匠を結ぶ、中継ぎの役目を果たしていきたい」と語った。

た、柱の間にスギ板を落とし込む「板倉の家」の工法で、東日本大震災後に福島県で建てられた木造仮設住宅が紹介された。福島県三島町の建設会社社長・佐久間源一郎さんは、プレハブ並みの工事の手軽さや木肌が醸し出す癒やし効果などが評価され、同県内で約200戸の仮設住宅を建てたと説明した。地域材活用を念頭に学童保育施設をこの工法で設計した名古屋市内の建築家・東海林修さんは「仮設住宅の事例はたいへん参考になる」と話していた。